

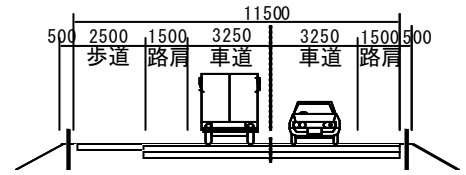
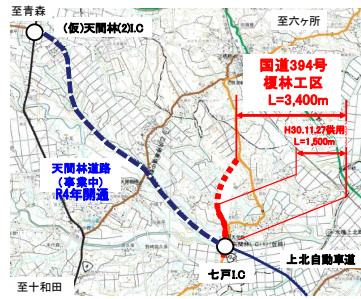
再評価結果（令和2年度事業継続箇所）

担当課：国道・技術課

担当課長名：奥村 康博

事業名	高規格ICアクセス道路 一般国道394号 <small>えのきぼやし</small> 榎林バイパス	事業区分	一般国道	事業主体	青森県						
起終点	自：青森県上北郡七戸町八森平 <small>かみきた しちのへ ほちもりたい</small> 至：青森県上北郡七戸町附田向 <small>つくだむかい</small>			延長	3.4 km						
事業概要	国道394号は、むつ市から上北郡七戸町を經由し弘前市に至る道路であり、本事業は、上北自動車道七戸ICとの連結による農畜産物の県内外への輸送時間短縮と品質を確保するための物流ネットワークの強化及び現道の隘路区間の解消を目的とし、七戸町八森平～附田向までの延長3.4 kmを整備するものである。										
H21年度事業化	都市計画決定なし		H24年度用地着手	H24年度工事着手							
全体事業費	約39億円	事業進捗率	約58%	供用済延長	1.5 km						
計画交通量	3,500台/日										
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 1.2 (残事業) 1.4	総費用 (残事業)/事業全体 18/39億円 (事業費：15/36億円 維持管理費：3/3億円)	総便益 (残事業)/事業全体 25/45億円 (走行時間短縮便益：24.4/43.7億円 走行経費減少便益：0.7/1.2億円 交通事故減少便益：0.1/0.1億円)	基準年	平成30年						
感度分析の結果	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">(事業全体) 交通量：B/C=1.0~1.4(交通量±10%)</td> <td style="width: 50%;">(残事業) 交通量：B/C=1.1~1.7(交通量±10%)</td> </tr> <tr> <td>事業費：B/C=1.1~1.3(事業費±10%)</td> <td>事業費：B/C=1.2~1.6(事業費±10%)</td> </tr> <tr> <td>事業期間：B/C=1.1~1.2(事業期間±20%)</td> <td>事業期間：B/C=1.3~1.5(事業期間±20%)</td> </tr> </table>					(事業全体) 交通量：B/C=1.0~1.4(交通量±10%)	(残事業) 交通量：B/C=1.1~1.7(交通量±10%)	事業費：B/C=1.1~1.3(事業費±10%)	事業費：B/C=1.2~1.6(事業費±10%)	事業期間：B/C=1.1~1.2(事業期間±20%)	事業期間：B/C=1.3~1.5(事業期間±20%)
(事業全体) 交通量：B/C=1.0~1.4(交通量±10%)	(残事業) 交通量：B/C=1.1~1.7(交通量±10%)										
事業費：B/C=1.1~1.3(事業費±10%)	事業費：B/C=1.2~1.6(事業費±10%)										
事業期間：B/C=1.1~1.2(事業期間±20%)	事業期間：B/C=1.3~1.5(事業期間±20%)										
事業の効果等	<p>①物流ネットワークの強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 上北自動車道七戸ICとの連結により、物流ネットワークが強化され、効率的で安定した輸送が可能となり、県内外への輸送時間短縮と鮮度・品質の確保に貢献することが期待される。 <p>②道路ネットワークの整備</p> <ul style="list-style-type: none"> 七戸ICとの連結により中核市である青森市、八戸市とのネットワークが整備され、防災機能の改善が図られる。 <p>③交通安全性の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> バイパスへ交通転換するため、現道の交通安全性の向上が期待される。 										
関係する地方公共団体等の意見	七戸町や国道394号整備促進期成同盟会から早期完成を求められている。										
事業評価監視委員会の意見	事業継続を妥当と認める。										
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	<ul style="list-style-type: none"> 平成31年3月に上北天間林道路が供用開始。 令和2年2月に国土交通省が天間林道路の令和4年内開通を公表。 										
事業の進捗状況、残事業の内容等	事業進捗率約58%(うち用地進捗率約46%)										
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等	早期完了を目指し、用地買収、工事を推進していく。										
施設の構造や工法の変更等	<ul style="list-style-type: none"> 路盤材、舗装合材に再生材を使用し、経費縮減に努める。 排水施設等の小規模構造物については、工場製品を使用し、工期短縮及び経費縮減に努める。 										
対応方針	事業継続										
対応方針決定の理由	事業の必要性、重要性は変化なく、費用対効果の投資効果も確保されているため。										

事業概要図



- ※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。
- ※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。